様式第５号

平成 30 年 05 月 29 日

野々市市議会議長　　様

（報告者）
会派名 ［又は 議員名］　市政議員会
代表者　土田　友雄

政務活動報告書

下記のとおり政務活動（~~調査研究~~、研修、~~要望・陳情~~）を実施したので、報告します。

期　　間	平成 30 年 05 月 21 日
視察、研修、要望・陳情の場所	衆議院第２議員会館　１F　多目的会議室
参加者氏名	土田友雄・宮前一夫・安原　透
目　　的（調査・視察事項）	全国災害ボランティア議員連盟　研修会・総会
調査・視察概要	（目的、内容、結果、所感等について記入） 研修①においては、「緊急報告！福井豪雪 - 内外の雪害支援の可能性 -」と題し、NPO 法人ふくい災害ボランティアネット理事長　東角　操氏よりお話しいただいた。 ここで課題となったのは、 ・国は最近では現地に状況把握をしに来る（国の進んだ取り組み！） ・一方、県は各市町からの情報をいまだ集めたがる（報告させる） ・・・いまだに、「情報をよこせ」というスタンス＝集中型の発想 これでは対応の遅れを招くのは一目瞭然。疑問！ このケースの最悪の対応は、 国は、様々な情報収集の結果、国道 8 号線で立ち往生した 1,500 台の車の救出のため自衛隊を派遣準備、これは県も要請していたこともあり、受け入れ。しかし一方で、灯油不足が懸念されるという情報も把握していたが、この灯油の供給を県は受け入れ拒否。（頼んでいない） （他の事例：熊本では国が真っ先に支援物資を送った。ナホトカ号のケースでは日本財団が強力な支援など） さらに「最新、災害ボランティア事情 - 日本財団からの報告 -」と題し、日本財団災害支援チーム　アドバイザーの黒澤　司氏からのお話。

	ボランティア＝素人の応援　という時代ではない。 特に東日本大震災を経て、今回の熊本などでも、個人の対応は社協を中心としたボランティアセンター、それとは別に技術系のボランティア（JVOAD）が立ち上がり活動の幅を広げている。 人手がいる作業、機械がする作業それらを効率よく打ち合わせを行い配置し、ボランティアが協働していく。 例えば、一生懸命個人ボランティアが流出土砂を土嚢に詰めて出す、それをまた集めて廃棄⇔土嚢袋に詰めず機械で撤去、廃棄。 所詮土嚢袋の土は産廃にしかならない。何十人かかった仕事が機械 1 台オペレーター1 人で、半日で同じことができる。それならば、プロボノ→スキルを活かしたボランティア活動。個人ボランティアは別の作業が待っている。 日本財団のチームは阪神・淡路以降、様々な災害で、ボランティアセンターに入り支援活動を行ってきた。 その後、研修②では、これらのお話をもとに公開討論会を行った。 テーマ 「議員として、災害支援や地域防災にどう向き合うか」 ー報告を受けて、重機ボランティアの可能性を探る - 結論　・・・　我々の立ち位置は　各々の対立を避け、「連携」を育むことにある。つなぐ役割。 各々とは、　・・・　ボランティアセンター、消防・警察機関、行政、その他諸団体など 終了後、総会が開催され、新たに衆議院議員の「谷　公一」氏が会長に選任された。 また、各地からの活動報告がなされた。 ※石川県支部の会報も別添
備　　考	

※記入欄が不足する場合は、欄を広げる等適宜調整してください。